

課題・テーマ

テーマ:小中高における英語指導の系統性を踏まえた授業開発

課題①角田小学校→角田中学校→角田高校と進学する生徒が多い中で、英語への苦手意識を持った生徒が多い。→系統性を理解する必要性

課題②本校生徒の多くが、英語を「話す」「書く」力を身に付けたいと思っている。→発信力強化のための授業改善の必要性

具体的な取組と工夫

■授業改善、パフォーマンステストの充実

- ・継続したスモールトークの実施、「話す」「書く」活動の充実
- ・英語コミュニケーションⅠ→やりとり、スピーチ、プレゼン、エッセイライティング等を実施。
- ・論理・表現Ⅰ→スピーキングテスト(ペアでのやりとり)の実施

■小中高連携事業(令和6年度よりスタート)

- ・角田小学校の授業に生徒をミニティーチャーとして派遣。(約20名の生徒が参加)
- ・角田中学校の授業に生徒が参加し、エッセイを添削。(約30名の生徒が参加)

■講演会及び県外校視察

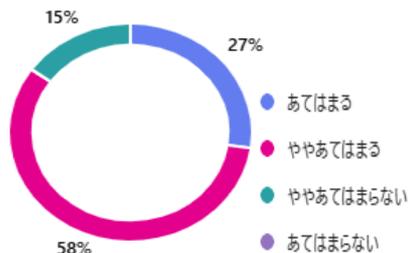
- ・演題:「現行学習指導要領全学年施行年度の指導・評価の振り返り—校種間連携及び言語活動を通じた英語力育成の視点から」
- 講師: 向後秀明先生(敬愛大学)
- ・発信力強化の取り組みを実施している広島県立尾道東高等学校、広島県立安芸府中高等学校、大宮国際高校を訪問。



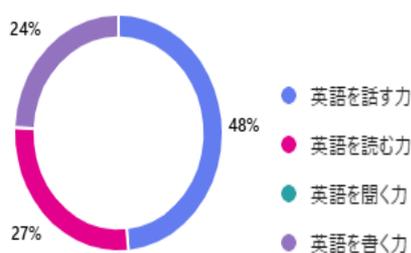
成果

◎英語力の向上を実感!!

■入学当初と比べて、英語の力が伸びていると感じていますか？

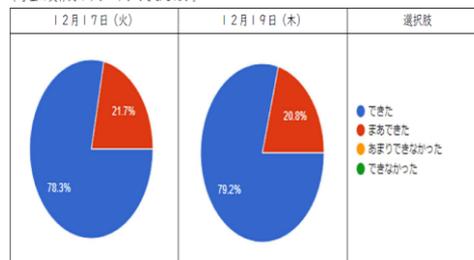


■入学当初と比べて、どの力が身に付いたと感じていますか？



■中学生との連携事業に参加した生徒アンケートより抜粋

中学生の英作文のサポートができましたか。



課題及び改善案

課題①授業改善の継続

角田高校の軸となる取組を作り、CAN-DOリストを活用しながら、より系統的、計画的な授業実践を行う。

課題②連携事業の工夫

連携事業は今年度が初年度であった。来年度以降も継続し、継続する中で、小中高で系統性を踏まえた授業開発を進めていきたい。